

「わたしがあなたがたを選んだ」

ヨハネの福音書 15 : 12~17

教会の交わりというのは、どういうものでしょうか。また、どうあるべきでしょうか。今日の、この箇所は、弟子達への遺言として、イエス様が、十字架につかれる前に、弟子達が愛し合うべき事を、教えた箇所です。

そして、今日の箇所をみると、私たちクリスチャンの人間関係には、様々な形と、関わり方がある事が示されています。

簡単な、今日の箇所に言及しますと・・・



## 友人 / 友達 / 知人

### (1) 友

イエス様と、そして、私たち教会の関係性が、「友」としてたとえられています。

13 節から、15 節にそれは、おもに語られます。

「15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わた

しはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。」

イエス様は、私たちを友だと言われます。そして、一方で、その友が、13 節には、「命を捨ててくれる友」のあり方として示されます。



### (2) しもべと主人

一方で、イエス様は、あえて、イエス様と私たちの関係は、「しもべと主人」の関係ではないと言われました。しかし、私たちは、イエス様が、私たちの主人である事を知っています。なぜなら、「主イエス・キリスト」と呼び、また、祈るからです。たしかに、私たちは、イエス様が、私たち

の事を「あえて」、友と呼んで下さったとしても、主人としもべであることを捨ててはいないのです。

時に、それは、会社での上司と部下の関係にも似ているかも知れません。



(3) 任命された(教会論としては、中心的にとりあげられる・・)

そして、今日の、もっとも印象的な聖句があります。その箇所を今一度、読みます。

「15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。

それは、あなたがたが行っ

て実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」

先ほど、しもべと主人の関係をあえて、会社の部下と上司の関係にたとえましたが、というのは、この「任命」とは、会社などでも使われるでしょうが、この言葉は、戦場において、上官が兵士に「行け」と命じる言葉だからです。その関係は、まさに戦友として同じ戦いを命がけで戦う関係である事を意味します。

ややこしくなるかもしれませんが、教会においては、上の3つの関係以外の関係性で、その関係を表します。为什么呢？

そうです。兄弟姉妹です。これは、家族の関係性です。



(4) 兄弟姉妹として(キリストの体として・・)

イエス様が、前回も言われ、今日も強調されている、互いに愛し合う関係であれと命じるとき、わたしたちは、その関係性を、兄弟姉妹の関係として愛し合うと理解します。それは、どういうことでしょうか。家族だと言うことです。これは、間違った理解ではありません。すなわち。

「15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれ

を、あなたがたに命じます。」とは、その関係のことを含んでいます。

また、この関係をあらわすもっとも良い、他に聖書に示されている関係としては、キリストを頭として、私たちは、その体だという理解です。教会はキリストのからだであるという理解です。目が痛めば、手が目をおおい、足が、病院に向かうという、体が命でつながっているような、それを有機的な関係と称して、説明します。

さて、それでは、いったい、どの関係が、教会の交わりの関係として正しいのでしょうか。

結論から言います。そのすべての関係性の素晴らしさを教会はもっているということです。そして、今日の箇所でも、そのことが、教えられていると言う事です。

今日は、わたしたちの、言わば「**教会観**(きょうかいかん)」というものについて教えられたいと願っています。

<大原則>

最初からみていきますが。まず、12節。

「15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」

前回以来教えられているところで、「大原則」です。それは、あらゆる関係のなかに適応されるべきことです。家族の関係の中にも、上司部下の関係の中にも、友人関係の中にもです。

教会の関係性が、兄弟であっても、イエス様を同じく、仰ぐ、しもべのつながりだとしても、どのような関係性においてもです。

そして、その大原則はきわめて大事な原則です。それは、単に愛し合うと言うことでは無く、「キリストが私たちを愛されたように」という一言が加えられているという点において特にであります。

まるで、キリストの敵であるような者でさえもここまで愛して下さったと知れば、不幸にも、敵しかいないと思う、家族であったとしても、会社であったとしても、「愛する」この命令は、変わらないと言うことです。もちろん、それは、教会に關係性のなかにも適応されます。この教会の中だけで考えれば、出来そうであっても、クリスチャンにもたくさんのタイプがあります。実は、政治家のなかにもたくさんのクリスチャンがいます。え？あの人・・・と思われる人もきっといます。あえて、言いませんが、正直、批判こそすれ、共に主に召し出された者同士だから、愛しますとは言えないかもしれないという葛藤があります。

しかし、それでも愛さなければならぬ。それは、まさに、ここにある「戒め(主の命令)」なのです。わたしは、どんな性格があわなくても、考え方が違っていても、ただ・・・クリスチャンであるという理由だけで、愛する事が出来るし、そのように愛さなければならぬと思っています。それは、まさに主の命令だからです。

それでは、残された時間、今日、示されている、あらゆる関係性について黙想しながら、今日の教えを味わってまいりたいと思います。



## (1) 友

しかも、イエス様はその友のために命を捨てられたようにとすることです。

三浦綾子の塩狩峠で、永野信夫という実在の方が、クリスチャンで、めでたい結婚の結納の日、汽車に乗り、塩狩峠にかかったとき、暴走する汽車を止めるために、自分の身を投げ出した。投げ出して、乗客の命を救った。

「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」まさに実践した。そのようにと行うのでしょうか。

みなさん、私たちの関係は、そのような関係でしょうか・・・いや、彼の場合は、愛と言うより、使命感ではないか？・・・そう考えたくないので。肉親の家族であっても、そのように出来るだろうかと思うのにと、思われると思います。

もちろん、そうです。出来るはずありません。普通は・・・

ただ・・・良く読んで下さい。イエス様もおっしゃっておられるのです。

「15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも

持っていません。」

「これよりも大きな愛はだれも持っていません。」と、イエス様以外がその愛をもっていないということをご自身がおっしゃっておられるのですから。

しかし、このことも触れなければなりません。

ここで聞いている使徒達は、イエス・キリストにならって、実践したということです。この話しを聞いた、ユダと、このヨハネ伝を書いているヨハネを除いて、10人はすべて殉教したと言われていました。この後も、まず、弟子達は皆イエス様を捨ててクモの子を散らすように逃げていってしまう、ほんとにあんなに弱くて、情けない弟子達だったのですが、逃げなかったヨハネを除いて、諄々（じゅんじゅん）として教会のため、「友のためにいのちを捨て」たのです。

イエス様は、彼らへの約束として、そのとき、思い出して欲しい、もうしもべではない、友として、わたしはあなたを天に迎えに行くとお励ましておられるということです。

「出来ないかも知れません。出来ないと思います・・・でも、あなたが出来る」と

言われるなら、あなたがわたしを愛してくださったように、そのように、謙遜に、まだ愛が足りない、愛し切れていないと、胸打ちたたきながらあなたに従い、人を意思続ける者として下さい。」と祈りたいと思います。

そして、この命令は、特に、この言葉をもって、さらに強調されます。

(2)「しもべと主人」と(3)「任命された(召された)」。

まことの主に召された者として、その主人に任命された者同士として、互いに愛し合おうと言うことです。御言葉を今一度確認します。

「15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」

大好きな聖句です。そして、多くの人がここから、すごく教えられると言われます。わたしが、自分で決意してイエス様を信じたように思っていたと思っていたら、実は、そのように決意するように導いておられた方がおられた、わたしは、そのお方に導かれるようにして、イエス様を信じたのだと言うことです・・

わたしは、なぜか、イエス様に選ばれたと言うことです。本当に素敵で素晴らしいです。

ただ、この文脈は、まさに、戦場の最前線に遣わされる兵士のように、使命を与えられて召されたと言うことです。

「選ばれた」という、その意味は、恵みの契約が・・有無を言わず結ばれると言うことを意味するのです。

そして、言うなれば・・戦場では、「15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。」

戦場は命がけだからこそ、互いに愛し合うことが求められる。時には、わたしはあなたの弾よけになるかもしれない。あなたが、わたしの弾よけになるかもしれないというほどに、命がけで支え合うということでもあります。

あらためて、今日、教えられた、教会の兄弟姉妹の関係について確認し合いたいと思います。

**クリスチャンが  
家族であること  
ということとは？**



(4) 兄弟姉妹として(キリストの体として・・・)

それは、主の「15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」の命令に基づく関係だと言うことです。もっと正確に言えば、「わたし(=キリスト)があなたがたを愛したように」という神の愛に基づく関係であると言うことです。さらに言えば、イエス様が私達の罪を赦し、私たちを天の家族として迎えてくださった、その愛の関係に基づく関係であると言うことなのです。

さて、そんな重い関係なのですね・・・重い(汗)・・・と思われたかも知れません。この愛の命令は、教会はもちろん、家族においても、まして、職場や、友人関係の中では、もっと難しいと思わざるを得ないのです。しかし、難しい人間関係に溢れ、その中で苦勞する私たちは、「それでも」愛する事が出来る根拠をもっているというのは、なんと強いことか、励ましかと思うのです。

今週の歩み。愛する事が難しい、この世であり、わたしであります、主のあわれみに押し出されて、愛する者として、ここから出ていく者でありたいのです。